



「妙高市民の心」通信

NO. 5

発行：妙高市・「妙高市民の心」推進協議会

思いやりや感謝の気持ち、家族や地域の絆を大切にする「妙高市民の心」。今回は、昨年11月に開催した「妙高市民の心」推進のつどいについて紹介します。

市民参加型の推進のつどいを開催

11月19日（日）、妙高市文化ホールを会場に約600人の市民の皆さんから参加いただき、「妙高市民の心」推進のつどいを開催しました。

前半は、子どもたちの作文の表彰と最優秀作品の朗読、地域や事業所の取組事例の表彰を行い（内容については市報みょうこう1月号で紹介しています）、後半は、俳優の哀川 翔さんをお迎えし、「家族や地域の絆を深めよう」をテーマに、トークショーと、市内の中高生・保護者の代表とパネルディスカッションを行いました。

●哀川 翔さんのトークショー

トークショーでは、哀川 翔さんから、自身の経験にもとづく生きたメッセージを発信していただきました。飾らない言葉の数々に会場の皆さんは大きくうなずいたり、メモをとったりしていました。

- ・(自分の) 子どもたちには「うそをつかない、人のものはとらない、人を傷つけないを守れば、後は好きに生きろ」と言ってきた。
- ・親子が互いに思い合うことで絆は生まれる。
1日1回でいいから子どもをギュッと抱きしめてあげて欲しい。
- ・絆は目に見えない、だからこそ「心」でつながっている。
「家族」という最小の単位が大事。



熱く語る哀川 翔さん

●パネルディスカッション

トークショーに続き、哀川さんを含むパネリスト5名がパネルディスカッションを行いました。

今回のパネルディスカッションでは、ステージ上のパネリストだけではなく、会場の皆さんからも自分の考えをカードで示してもらうなど、会場と一体となって、みんなで「妙高市民の心」を考える良い機会となりました。



パネルディスカッションの様子

【パネリスト】

- 哀川 翔 さん（俳優：講師）
- 尾島 歩武 さん（中学3年生）
- 赤野 るい さん（高校2年生）
- 児玉 久美子さん（保護者代表）
- 山崎 健太郎さん（保護者代表）

今回、推進のつどいにパネリストとして参加していただいた山崎健太郎さんから、感想を寄稿していただきましたので紹介します。

家族や地域の絆を深めよう

山崎 健太郎

私は、(一社)妙高青年会議所メンバーとして「共催」という形で、そして一市民として「父親代表のパネリスト」という形で、「妙高市民の心」推進のつどいに関わりました。

その中で、子どもは家族が育てると同時に、地域全体で育てるものだという考えが強くなりました。

世代交代の波により、この妙高にも、人の子を叱れない、地域住人との挨拶に少し戸惑ってしまう、そんなちょっとした心の壁が積み上がってきていると感じています。

私の少年時代は、町内の畑から農作物を失敬したり、川で釣りをして魚を焼いて食べたり、空き地にアジトを作って遊んだりということを、まだギリギリしている時代でした。

今思えば町内の方々には迷惑をかけましたが、同時に町内には私を叱ってくれる大人がいて、互いの家族の顔が見え、町内一体で暮らしていたように思います。



今は「煩わしきの解消」がビジネスになる時代です。

人と関わることの煩わしきから逃れるあまり、地域一体で暮らす意識が薄れ、プライバシー保護の名の下に地域一体で子どもを危険から守るという意識も薄れつつあるように感じています。

「妙高市民の心」推進のつどいでは、そんな地域の結び付きの大切さを感じることが出来ました。

私達世代も地域と家族(親)から受け継いだものを育み、今度は、これからの地域と私達の家族に還していけるよう努めます。

ありがとうございました。

ホームページもご覧ください ~特設ページを公開中~

「妙高市民の心」の様々な活動や取り組みのほか、推進のつどいで表彰した作文や取組事例を紹介していますので、ぜひご覧ください。

また、「妙高市民の心」通信のバックナンバーも公開しています。

アドレスは下記のとおりです。皆さんからのご意見等もお待ちしています。

<http://www.city.myoko.niigata.jp>

◆・◇・◆問合せ先：妙高市教育委員会生涯学習課市民活動支援係◆・◇・◆
〒944-8686 妙高市栄町5-1 TEL 74-0034 Fax 72-3902